



TITLE:

クラムプ博士の來朝

AUTHOR(S):

CITATION:

クラムプ博士の來朝. 天界 1928, 9(93): 60-62

ISSUE DATE:

1928-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161352>

RIGHT:

クラムプ博士の來朝

去る十月十五日、米國からクリフ・オド・シー・クラムプ博士といふ天文學者が横濱へ來着したことを新聞で見た。クラムプ氏に言へば自分の舊知の人であつて、かつて1923年九月のカリフォニア海岸の日蝕觀測には、共にヤーキース隊の一員となつて、幾十日の間、カタリナ島に起居を共にした事もある。（『天界』第39號第130頁參照）來朝があれば迎えねばなるまいと思ひ、すぐ東京帝國ホテル宛に下の電報を送つた。

WELCOME SORRY ABSENT FROM FRIDAY 19 TH UNTIL
FRIDAY 26TH YAMAMOTO KYOTO UNIVERSITY OBSERVATORY

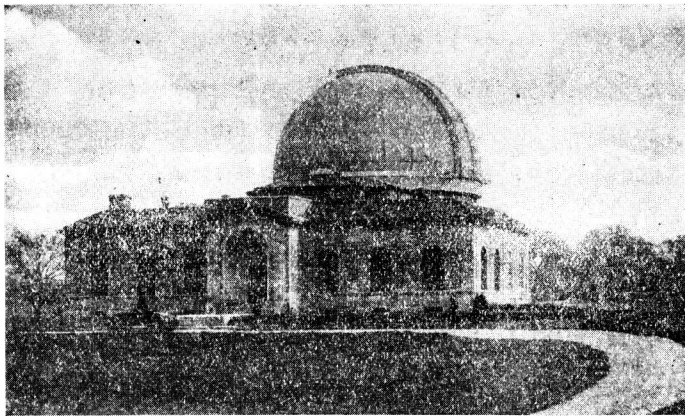
ちようご自分は九州へ出張する日が近くに迫つてゐたので、其の不在中に京都へ來られては残念だからといふ意味を含めたのであつたが、さうしたもののか、返事が來ない。不安のまゝ、自分は出立してつた。

自分は十月二十五日、（豫定より少しく早く）、京都へ歸つた。クラムプ氏の事が多少心懸りであつたからでもある。歸宅して、夕六時頃、都ホテルへ電話をかけて見たところ、『クラムプといふ方は去る二十一日から來泊してゐられたが、今日午後、神戸へ向け出立せられました。船が明日出帆するのです。神戸で多分今夜はオリエンタル・ホテル泊りでせう』といふ返事。「それでは」こゝ早速、電話を神戸のホテルにかけたところ、ちようごクラムプ氏が在室せられたので、幸ひ直接に談話することが出來、『取り敢へず、明朝こちらから御訪ね致します。』『オーライ。サンキユー』で電話を切つた。

翌二十六日、自分は英子と共に七時の汽車にのり、三宮からオリエンタル・ホテルへ正九時に到着。ちようご朝食後のクラムプ氏に面會した。例の通りの元氣な、やさしみのある顔である。挨拶に次いで、カタリナ以來の話、ヤーキース天文臺の話、フロスト夫妻から吾々兩人への傳言、ハーブードの話、ヨーロッパ旅行の話など、盡きない。——クラムプ氏は米國オハヨ州デラエア市にあるオハヨ・エスレイ大學の教授で、同大學パーキ

ンス天文臺長の職にある。かつて、ミンガン大學天文臺で、セフェ座ベ星のスペクトル觀測により視線速度の研究をした人である。自分が1923年の春米國クリーヴランド市のワーナー・スエージー會社を訪ねた時、同會社がパーキンス天文臺のために「六十一吋」口径の大反射鏡を作つてゐるのを見たことがある。此の器械の事を、此の日、クラムプ氏に聞いて見たところ、氏は『あれは鏡面が英人コンモン作のもので、ふちに少しく傷があるため、其れを作りかへるこゝになりました。幸ひワシントンのスタンダード局で可なり大型の硝子材を作りましたので、其れを今ピッツバーグ市のフェカー會社で磨いてゐます。こんごのは口径七十吋です。此の工事が今進行中なので研究の暇を得たのを幸ひ、北京大學へ今から講演に行くのです』

パーキンス天文臺の景



『するこ、今までの六十吋のフレームは何うなります？』

『あれは當分私の天文臺に持つてゐますが、使ひ道が無いので、慾しい人があれば譲るつもりです』

『北京の講演後は？』

『北京の講演を終れば、海路インドに渡り、カルカッタ大學や、ハイデラバド天文臺等を訪ふた後、ヨーロッパへ行つて諸所歴訪し、來年の春は英國ケンブリヂ大學のエデントン教授の所で暫く足を止め、五月頃に米國へ歸るつもりです。』

『それでは日本へは最早や來られませんか』

『來られません。それで、京都の天文臺を御訪ねしなかつたことも残念でなりません』

『東京天文臺は如何でした？』

『東京天文臺も訪ねるここが出来ず、従つて東京の天文學者には一人も會ひませんでした。一日電話をかけて見ましたが、何だか言葉が通じないので其のまゝ切つて了ひました。しかし本郷の大學構内は丁寧に拜見しました。理學部の建築の屋上に小さいトランシト室があるのも見ました。』

『ごきに、ミスタ・クラムプ、來年の東洋の日食觀測に米國から來られる人々は誰々でせう。九月の A.A.S. の會合で何か相談がありましたか？』

『さうさう、九月の A.A.S. の會には貴君の論文が代讀されましたよ。——日食については何も相談はありませんでした。噂に聞いた所では、こんごは米國から餘り大勢やつて來ないやうです。勿論、リクミ井ルソン山ミからは必ず來ませう。リク天文臺は毎年の日食を缺かさず必ず觀測する方針でゐるのは御承知の通りです。又、井ルソン山の人人は近頃日食にも非常に熱心なやうです。しかし、其のほか、ヤーキース、ワシントン、ハーバードあたりの天文臺から觀測隊が派遣されるか如何か知りません。』

『ワシントン天文臺は今まで日食には可なり熱心だつたようですが？』

『そうです。しかし、ワシントンでは近頃天文臺長が交代しましたから多少方針が變るらしいです。——日本からは？』

『行きたいと思つて奔走はしてゐますが、未だ確かではありません。』

こんな談話をしてゐるうちに、般の出帆時間も迫つて來たので自分等は『又いつか御目にかゝりませう、アメリカでか、日本でか、グッドバイ』と言ひ交して、ホテルを辭した。(山本一清)

分裂した星 Nova Pictoris の其の後

本年の春、二つに裂けたミの評判で世界中を騒がせた此の新星は、去る十月から南米南阿あたりの空に又々見えて來た。英國 Daily Telegraph 通信によれば、ジョハネスバーグ天文臺の Finsen, Van den Bos 兩氏は、裂けた二つの部分が益々遠ざかりつゝあることを認め、目下熱心に觀測を續けてゐるといふ。(本誌第87號第275頁參照)